

写

東京都知事代理

副知事 猪瀬 直樹 様

多摩都市モノレール箱根ヶ崎方面への延伸について（要望）

平成24年11月5日

東 大 和 市

武 蔵 村 山 市

瑞 穂 町

写

多摩都市モノレール箱根ヶ崎方面への延伸について（要望）

紅葉の候、貴職におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃、東大和市、武蔵村山市並びに瑞穂町の行政運営につきまして、特段の御高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、多摩都市モノレールにつきましては、既に開業している上北台・多摩センター間では、1日平均で12万人以上が利用し、営業利益は8期連続、当期純利益は4期連続で黒字となるなど安定した経営が達成され、地域住民の重要な交通機関として定着しております。

また、上北台・箱根ヶ崎間につきましては、大型商業施設の進出や土地区画整理事業の展開、さらには、新青梅街道拡幅整備の着手、拡幅とあわせた沿道まちづくりの検討の推進などモノレールの利用者増加につながる開発が進み、延伸に向けた環境が整ってきております。

さらに、本年2月には、武蔵村山市の市民団体「モノレールを呼ぼう！市民の会」がモノレールの早期延伸を求める講演会を開催し、会場が満席となる258名の来賓及び参加者と共にモノレール延伸の重要性を再確認するなど、沿線住民のモノレール延伸への期待は、ますます高まりを見せています。

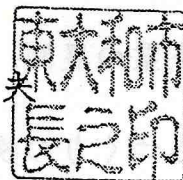


上北台・箱根ヶ崎間をモノレールで結ぶことは、多摩地区北西部の軌道交通ネットワークが充実し、公共交通の利便性が飛躍的に向上するほか、駅等を中心とした多様な機能の集約と公共交通における環境負荷の低減、そして高齢者等にもやさしい活力のあるまちづくりに寄与するものとなります。

つきましては、平成12年の運輸政策審議会答申第18号で「整備着手することが適当である」と位置付けた目標年次（平成27年）まであと3年に迫っていることも踏まえ、多摩都市モノレール箱根ヶ崎方面延伸に向け、最大限の努力をされ、1日も早く事業化を図られることを要望いたします。

平成24年11月5日

東大和市長 尾崎 保夫



武蔵村山市長 藤野 勝



瑞穂町長 石塚 幸右衛門

